

自立と共生のまちづくりで 元気な吹田を実現しよう!!

ばばけいじろうが吹田市政に取り組む基本政策 **一部抜粋** 詳しくはホームページをご覧ください baba-keijiro.com



吹田市政に対するご意見や
ご提言をお聞かせください。
みなさまのお声をもとに
議論を重ね、
政策に反映します。

一人ひとりの個性や能力が輝くまちづくり

1 活力とにぎわいのまちづくり(地域文化/市民文化)

●小・小学校の空き教室を、世代を超えた交流の場にし、地域コミュニティを再構築。●小規模文化ホールの新設、各地区公民館の整備で、市民活動を活性化。●公共施設利用の減免制度を再開。●友好都市との都市農村交流の活性化。週末農業の促進●空き家の有効活用。憩いカフェやコミュニティガーデンなど、交流・みどりの拠点に。●吹田の歴史・伝統・文化を見つめなおし、地域の宝物を再発見。そこにあるものを活用。●まちづくりを担う人材(ファシリテーター)の育成。●地元学、地域学の確立。●大学生や留学生との意見交換の場を作り、新鮮な発想を市政に反映。●住民運営型コミュニティバスの創設。●環境、福祉、平和、ジェンダー、人権、国際理解など、持続可能な開発のための教育(ESD)の推進。●持続可能性をめざす自治体協議会(ICLED)への加盟。●ガンバ大阪と市民、地域の交流促進。新スタジアムの活用とサポーターが集う空間の創造。●北千里小学校跡地の民間売却は中止し、サッカーやゴルフなど市民の運動広場に。

2 花、緑、水がめぐる憩いのまちづくり(環境)

●ヒートアイランド対策として、緑と水の遊歩道の整備、屋上緑化・壁面緑化の推進。●憩いの場として河川親水公園の整備。●バイオマス発電や小水力発電など小規模分散型発電システムの構築。●太陽光パネル、太陽熱利用、家庭用燃料電池、雨水利用など省エネ・創エネ設備の普及促進。●地域エネルギー管理システム(CEMS)を導入。スマートシティへ移行。●廃食用油の回収を推進し、バイオディーゼルの燃料や廃油石鹸に活用。菜の花プロジェクトに参加。●遊休農地を活用した指導員付き市民農園の開設。●吹田の竹林・里山・鎮守の森の保存整備。●淀川流域圏の自然を守る「森のサポーター」の再結成。●市内公共施設の新築・建替えには木材(特に国産材)の積極活用。

3 未来へのまちづくり(子育て・教育)

●知育・体育・徳育とともに人間性豊かな子どもたちを育てる。●地域行事への参加、自治会との交流などで、地域社会の構成員としての自覚を養い、人と人の絆を重んじる共生意識を育む。●小・中学校での農業体験の充実、全校に児童農園を設置。●自然との触れ合いの場を創出するため、各校にビオトープを建設。●友好都市との交流など、青少年育成事業の強化。●日本の食文化や地産地消の大切さを理解するための食育の推進。●日本の科学技術の継承を危うくする理科離れを防ぐ。米沢富美子子ども科学賞の充実。●市内の大学との連携。実験設備の見学や学生による出前講座。●「太陽の広場」実施曜日の拡充。●地域文化・郷土史を学ぶ機会を創り、故郷すいたへの愛郷心を涵養する。●教育現場への民間外部人材の登用。多様な技術や知識を次世代に。●中学校給食は全校自校調理をめざす。●公立幼稚園・保育園は存続させ、多様な保育施設を追加整備することで待機児童を解消。●病児、病後児保育事業の拡充。●公立保育所への入所申請期間の前倒し。産休や育休からの職場復帰を円滑に。●市役所に子育てコンシェルジュを配置。出産育児に関する悩みごとの総合相談窓口。

4 笑顔と思いやりのまちづくり(暮らし・健康・福祉)

●高齢者の生きがいづくりのための様々な交流の場を提供。●「助けあい・支え合い・分かち合い」の地域福祉の充実。●高齢者・障がい者・小児など福祉分野のタテ割りをやめ、宅幼老所を活用。●障がい者雇用の促進。●地域教育への参加など、新たな公共におけるシルバー人材の活用。●終末期ケア(ホスピス)の充実、がん患者や家族のネットワークづくり。●震災避難者への情報提供、担当窓口の設置。●徘徊高齢者を見守る認知症サポーター事業の拡大。●既設の各種相談窓口を積極PR。市民に身近な存在に。●路上喫煙禁止地域を市内のすべての駅前、青少年施設周辺に適用。

5 活気あるまちづくり(都市創造・地域経済)

●千里ニュータウン再開発では医療・環境の最先端技術^①を応用し、持続可能な都市をつくる。●国立循環器病センターや吹田市民病院の移転後の跡地利用について早急に検討。●コージェネ・地域熱供給システムを導入した環境先進都市の整備。エネルギー自立のまち。●東部拠点まちづくり(操車場跡地)は環境医療先進都市に。医療と環境の分野での雇用創出。●JRおおさか東線の新駅を中心とした南吹田のまちづくりに地域住民の声を反映。●産学官の連携促進。産業支援センターを創設し、企業のイノベーション創出を支援。●中小企業によるモノづくりを支援。●学生や若者によるチャレンジ出展の支援や駐車・駐輪スペースの整備による商店街活性化。●ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスの起業支援。●万博公園駅などにデジタルサイネージを設置し、吹田市の魅力を発信。市内観光に誘致。

6 安心・安全のまちづくり(防災・景観)

●防災訓練の徹底で大人から子どもまで防災意識を向上。地域防災体制の見直し。●マンホールトレイや太陽光発電設備を備えた防災公園の拡充。●集中豪雨時の冠水対策「雨水レベルアップ事業」の推進。●毛布や非常食、発電機などを各避難所の防災器具の整備・充実。●線路への転落事故を防止するホーム柵を各駅に設置。●官民協働による地域美化活動の推進。●歩道の整備と自転車利用のマナー向上で歩きやすくなるまちづくり。●JR吹田駅周辺や江坂駅周辺の放置自転車対策のため、コイン型駐輪場の設置。●公園や路地の街灯を増加。●南吹田の地下汚染水の拡散防止に全力。

自治体機構の改革!! ~道州制の導入を見据えた総合力の向上~

1 市民が主役のまちづくり(市民参加)

●市民参加型のまちづくり推進機構の設置。地域の課題をみんなで共有。●地区別、テーマ別のまちづくり協議会の創設。財源・権限を担い地域内分権を推進。●市民や学識者による政策提言シンクタンクの設置。●各種団体・協議会への若者や子育て世代の参画を促進。●市民目安箱の設置で、住民の声を直接行政に。●GNHを参考にした住民幸福度調査の実施。

2 市民に身近で開かれた行政(行政改革)

●自助・互助・公助の理念に基づく、市民、地域、行政の協働のまちづくり。●NPOやボランティア団体への権限移譲と活動支援。●各分野において市民公募型パートナーシップ事業の実施。●効率的で効果的な行政をめざし、職員体制のスリム化と新しい公共の創出。●タテ割り行政の排除。部課横断型の市勢戦略会議の設置。●市民と行政職員との交流を促進し、連携を強化。●徹底した情報公開で行政における意志決定の透明化。●市の財務状況を明瞭にするため、複式簿記などの企業会計手法を導入。●職員による不正や汚職を未然に防止するため、外部監査と内部統制システムの強化。●市職員の能力やスキルの向上、意識の改革、職員の発案を積極採用。●行政サービスの品質向上で住民満足度をあげる。●広域行政の円滑な運営のため、市民・行政レベルでの交流を促進。

3 市民とともに歩む議会(議会改革)

●監視型議会から提案型の議会へ。●通年議会制で政策立案力を強化。●議員間討議の活性化。●市民への議会報告会・市民との意見交換会を定例開催。●住民代表としての責任。意見の集約と民意の形成。

元気な吹田市を創る!!

ばば けいじろう

37才